

島根県自転車競技連盟

—— これまでのあゆみ

島根県自転車競技連盟は昭和42年に発足し、現在の会員数は150人程度になる。本連盟は県内の自転車競技の発展、普及、競技力の向上を目的とし、大会の運営のほか、活動する選手の指導、サポートを中心に活動している。

本連盟では、島根県内の自転車競技で活動する選手が一堂に集まって活動することで、競技レベルの向上や選手同士の交流を深めることで活動の活性化を図っている。

令和3年には、選手層の拡大をめざし「島根ジュニア自転車クラブ」を発足し、小学生から高校生、大学生、社会人と幅広い層の競技者の皆さんと一緒に活動を行っている。

—— 現在の状況

連盟発足時は、島根県内には出雲工業高校と大田高校の2校に自転車競技部があったが、少子化、部活動精選の流れから、現在では出雲工業高校1校のみとなっている。令和3年に発足した島根ジュニア自転車クラブでは、出雲工業以外の高校部活動に所属しない選手にも自転車競技の活動の場を提供することを目的とし、小学生、中学生の競技者の取り込みを行い、着々と競技人口の拡大が進んでいる。また、高校を卒業した競技者が大学でも競技を続ける傾向も出始め、幅広い年代が自転車競技に関わる状況となっている。

日々の練習、強化活動として、週末の県内合同練習会、月例の「三瓶練習会」、年3回の「三瓶強化合宿」など、県内の自転車競技者が合同で練習を行うことで、連盟の活動も活性化している。

また、各種トラックレースのほか、年3回のさくらおろち湖ロードレースは県内外からの自転車愛好家が集まる大会となり、令和5年で13年目を迎えた。コロナ禍で一



月例三瓶練習会



令和5年 中国地域ロードレース
成年男子 優勝 糸川典住選手 少年男子 優勝 坂本穰司選手
成年女子 優勝 藤井美紀選手

時参加選手が減る中で、例年300人前後の大会参加者が集まり、活気ある大会となっている。

近年では、これらの活動の成果が少しずつ競技成績にも見え始め、令和5年はインターハイで2人が表彰台を獲得するなど、令和3年度から令和5年度まで3年連続で島根県スポーツ協会表彰を受賞し、選手の実力も着々と向上している。全国レベルが見えない過去から、全国に肩を並べることができるようになり、この先さらに全国の頂点を目指すことを目標に連盟一同で意気込んで活動している。



令和5年 函館インターハイ
4 km速度競争 第2位 寺本将輝選手(松江北) =左
3 km個人追抜 第3位 小林典宗選手(出雲)

—— これから

2030年に「島根かみあり国スポ」の開催が決定している。令和6年現在の小学5年生から高校1年生が開催年の主力になると考えられる。島根県から全国の舞台で多くの入賞、優勝を獲得できるように、自転車競技の強化、普及を一層進めていきたいと考えている。また、自転車競技の普及とともに、大会の開催、運営による人々の交流が地域活性化の一助となればと考えている。